

ドン・カミロ頑張る 1955年5月13日公開 上映時間 106分

「陽気なドン・カミロ」の続篇として「埋れた青春」のジュリアン・デュヴィヴィエが一九五三年に監督した作品。前作同様ジョヴァンニ・グアレスキの原作からデュヴィヴィエとルネ・バルジャヴェルが脚本と台辞を執筆した。撮影は「わたしの罪ではない」のアンキーゼ・ブリッツィ、音楽は「ユリシーズ(1954)」のアレッサンドロ・チコニーニ。前作にひきつづいてフェルナンデル、ジーノ・チェルヴィ（「肉体の誘惑」）が出演するほか、「愛人ジュリエット」のエドゥアール・デルモン、「懐かしの日々」のパオロ・ストッパ、「赤と黒(1954)」のアレクサンダー・リニョオ、トミー・ブールデルなどが助演する。

ドン・カミロ（フェルナンデル）は雪の降る山上の淋しい司祭館に落付くことになった。一方、町では洪水期を控え、ペポネ町長（ジーノ・チェルヴィ）は堤防強化を決意したが、そのため畑地を削られる地主カニョラはこれに真向から反対した。また村の老医師スピレッティは瀕死の床にありながらカミロに見取って貰えるまではと元気を取戻し、町人たちもひたすらカミロの再帰を願うのだった。カミロ自身も郷愁もだしがたく口実を設けて町のペポネに会いに来るほど。ペポネはついに司教閣下を訪れてカミロ帰還を願い出た。町に戻ったカミロは、到着早々、人民の家で開催中の拳闘試合をさらって颯爽たる腕前を示し、ヒビの入った鐘楼の修理募金に政治力を発揮、大時計までとりつけて、人民の家の時計にはり合った。そして互いに負けてはならじと時計を進めるので町の人たちは二重の時間に悩まされるのだった。カニョラは、カミロに対して一度は堤防建設を承諾したが、いざとなると取消し、このペポネ対カニョラの不和からその子供たちまで対立して争ったりするうちに、降りつづいた雨でとうとう堤が切れて町は水びたしになってしまった。町民は右も左もそろって堤防の上に避難した。明ければ日曜日、カミロは教会で腰まで水に浸りながら町の人たちに呼びかけ、一同を元気づけた。感激した老スピレッティが力のかぎり鐘をついたので、そのあおりで鐘楼の壁が崩れ落ち、カミロは下敷きになって気絶した。そのカミロもペポネに助け出され、二人は例のごとく憎まれ口をききながら、おのおのの持場へ帰って行くのだった。

原題 *Le Retour de Don Camillo* 製作年 1953年 製作国 フランス

スタッフ 監督 ジュリアン・デュヴィヴィエ

原作 ジョヴァンニ・グアレスキ

脚本 ジュリアン・デュヴィヴィエ、ルネ・バルジャヴェル

キャスト Don Camillo フェルナンデル
Peppone ジーノ・チェルヴィ
Spiletti エドゥアール・デルモン
Marchetti パオロ・ストッパ
Nero アレクサンダー・リニョオ
Cagnola トミー・ブールデル
Peppone's Wife レダ・グロリア